

柔道部

部長 菅波 盛雄
 監督 廣瀬 伸良
 コーチ 飯嶋 正博

学外コーチ 根本 勇作, 田村 昌大, 松平 憲彦

1. はじめに

本学柔道部は、2008年3月末に念願の創部50周年記念式典を終え、併せて記念誌も発刊した。2009年はこれら一連の50周年をひとつの節目として、新たな出発の年であった。

本学柔道部が加盟する東京学生柔道連盟は多くの伝統ある強豪校が薙ぎ、これらの強豪校がそのまま全日本学生大会で上位を占める極めて厳しい状況下にある。言い換えれば、東京学生柔道連盟での試合はあくまでも全日本学生柔道大会の予選であるのに、全日本の試合と同じレベルで試合を強いられる訳である。勿論、東京での試合で敗退すれば全日本への出場はかなえられない。

柔道の試合は春の体重無差別で行われる優勝大会（7人戦体重無差別の団体戦）、秋に7階級で行われる体重別選手権大会（個人戦）がある。昭和60年以来小兵選手揃いの本学は、東京学生柔道連盟の一部校に留まり全日本学生柔道優勝大会への出場を果たしてきた。そして全日本学生柔道優勝大会においても平成2年からベスト16の成績を維持してきたが、近年このベスト16から遠ざかっていることも事実である。何とかこれらの状況からの脱却を図ろうと様々な方策を試みている時期であった。しかし、先にも述べたとおり2009年は50周年記念の区切りの年であり再出発の年と位置づけた。加えて、部を取り巻く環境も従来と変わり部員の確保も漸く変化の兆しが見え始めてきた。この時期を逃さずに一気に攻勢に転じたい。

2. 目標の設定

春の団体戦、秋の個人戦ともに東京予選がある。そのほかに千葉県学生大会も春と秋にそれぞれ団体および個人が開催されている。近年の傾向としては大量に部員を確保

し、強化を図る大学が増えてきている。そのために専門課程のある本学と雖も全ての大会に全力で臨まざるを得ない。しかし、より多くの部員に大会参加の機会を生かしてもらいたいとの意向で学内予選等を行い、公平な選考を行っている。部員も学内の厳しい選抜を勝ち抜いて部の代表として堂々と日本武道館で試合をして頂きたい。

部の目標は東京学生柔道優勝大会においてベスト8を狙い、次いで全日本学生柔道優勝大会でベスト16に復帰することである。

部員は2010年3月に6名の卒業生を送り出すとともに4月には7名の新生を迎えることができた。僅かに1名の増員ではあるが、これを地道に繰り返して部を大きくしてゆきたい。そこで選手の座を巡っての熾烈な競争が部のレベルアップに繋がることであろう。部員一人一人の意欲とチャレンジ精神に期待したい。

3. 部員の育成方針

柔道部の指導方針は、創始者である嘉納治五郎の柔道精神を具現化し文武両道の指導者育成にある。そのためには柔道に関する知識の獲得、現行の競技化の方向性について考察し、強化に関する方策および競技力向上についての科学的分析とその知見の応用など広い分野での勉強が求められる。そしてこれらと並行して自身の競技力の向上も図り、斯界に於いて有為な指導者となることを目的とする。

4. 今後の課題

現在本学が置かれている状況は、対人競技の強化としては決して恵まれているものではない。より多くの稽古相手がいればそれだけ効果的な稽古が可能であり、技術・体力の向上も図れるであろう。しかし、これら練習の相手は自

ら求めて行くものであり、困難な状況下で工夫して捻出し、その機会を最大限生かすという事を念頭に置いて稽古に励んで頂きたい。そのためにも、普段からのトレーニングや自己の試合の分析、そして本学で学ぶスポーツ科学関連領域の内容を活用して欲しい。部としては、長期休暇中の強化合宿および他大学の出稽古の受け入れおよび近隣の強豪校への出稽古などを予定している。なお、千葉県警察へは定期的に出稽古をお願いしており強化に協力して頂いている。

2010年度は下記の団体試合での上位入賞および個人戦である全日本学生柔道体重別別選手権大会へ全階級出場を目指したい。

5. 2010年度の大会情報

- (1) 平成22年度東京学生柔道優勝大会（男子59回 女子

21回）

於 日本武道館 平成22年5月23日（日）

- (2) 平成22年度全日本学生柔道優勝大会（男子59回 女子19回）

於 日本武道館 平成22年6月26日（土）～27（日）

- (3) 平成22年度東京学生柔道体重別選手権大会（男子29回 女子26回）

於 日本武道館 平成22年9月5日（日）

- (4) 平成22年度全日本学生柔道体重別選手権大会（男子29回 女子26回）

於 日本武道館 平成22年10月9日（土）～10（日）

そのほかにも、千葉県学生柔道大会や全日本学生柔道体重別団体優勝大会などがある。これらの大会での上位入賞を目指す。